



FSCだより

北里大学獣医学部 附属フィールドサイエンスセンター

第 48 号 2013. 2. 15

FSCの設立趣旨

土地、植物、動物及びそれらを取り巻く環境を生命系として教育・研究を行うとともに、これらの研究成果を通して、広く地域社会の発展に寄与することを目的とする。

十和田農場から

紅葉祭での展示・クラフト体験

10月6日、7日に北里大学十和田キャンパスで紅葉祭（学園祭）が開催されました。十和田農場では、実習風景や動物たちの写真の展示、農場で飼育しているサフォークの羊毛を使った羊毛フェルトのクラフト体験を実施しました。羊毛フェルトのクラフト体験では、農場にいる動物のマスコットを作りミニチュア農場を再現し、子供たちや女性の人気を集めました。

また、農場で使用している道具や牛の鼻環、牛に食べさせているデントコーンなども展示して、農場の現場の様子をのぞけるような工夫をしました。さらに、外部からの体験学習や見学の様子をポスターにまとめるなどして、学内利用だけにとどまらない農場の意義をアピールすることができました。



八雲牧場の紹介ポスターと子牛やキツネのはく製、牛の頭蓋骨などの展示物を八雲牧場から送ってもらい紹介しました。特に、はく製は大人気で、たくさんのお客さん呼び込んでくれました。当日は多くのお客さんに集まっていただき、農場の魅力を発信できたかと思えます。クラフト体験は行列ができるほどの好評ぶり、みなさんに喜んでもらうことができました。

今後は、十和田農場や八雲牧場で作っている肉を提供するなどの新しい企画を盛り込

んで、みなさんに楽しんでもらえるように紅葉祭への参加を続けたいと思います。

八雲牧場から

札幌市下水道資源公社来場視察（10/25）

札幌市下水道資源公社から4名が来場され、資源循環型畜産を行っている八雲牧場を視察されていきました。

北里八雲有機牛出荷（10/31）

昨年に引き続き2回目の有機牛が通常出荷牛とともに出荷されました。まだまだ有機畜産物に対する認知と理解が少ないため屠畜場の変更など様々な障害がありましたが、これからは北海道内での屠畜が可能となったことから順調に出荷できそうです。

北里八雲牛が第2回北海道肉専用種枝肉共励会で最優秀賞を受賞

2012年11月2日に、北海道アンガス牛振興協議会と北海道日本短角牛振興協議会の共催で、第2回北海道肉専用種枝肉共励会が帯広市の北海道畜産公社十勝事業所で開催されました。

日本短角種の部門で、牧場産北里八雲牛の1頭が栄えある最優秀賞を受賞しました。受賞理由は、放牧を主体とした自給粗飼料100%で生産されているながら、部分肉歩留まり（枝肉重量/出荷時体重）が60%、ロース面積57cm（全部門38頭中1位）、バラの厚さが6.2cmと十分な厚さがあり、皮下脂肪厚は1.7cmと薄く、産肉性が高いことが評価されました。



農林水産省来場視察（11/2）

元牧場長である萬田富治先生の話しを聞き来場してみたかったとのことで農林水産省より2名、北海道農政事務所より2名および八雲町長が来場されました。

北海道肉用牛研究会および日本短角種研究会の視察（11/6）

両研究会の視察地として八雲牧場を選定いただき、関係者約70名が視察されていきました。

限られた時間ではありましたが、町内産北里八雲牛の生産組合長の佐藤正之氏の牧場視察を行い、その本家である八雲牧場を視察されるという行程で大変興味を持たれて見

学されていました。

株式会社ツムラ来場(11/15)

八雲牧場における生薬栽培の可能性を知りたいとのことで、株式会社ツムラおよび株式会社夕張ツムラから担当者が来場されました。伊藤副学長が、牧場の説明のために来場され対応されました。

しかしながら、八雲牧場の草地はほとんど全てが有機管理草地として認定されているため、牧場での栽培は難しいことから、離農による耕作放棄地や休耕地とされている草地の利用はどうか八雲町に相談を持ちかけました。対応いただいた町長、副町長、はじめ農林課の方々の手応えは大変良く、現在町内での普及がはじまっているところです。

北里八雲牛生産者組合視察(11/27)

町内産北里八雲牛の生産者組合の方々が視察に来られました。今後の取り組みにとっても熱心で、大学としても科学的な見地の解明などの部分で協力していかなくてはならないと実感しました。

シャロレーを十和田農場へ(11/14)

2012 年生産の繁殖雌牛候補のシャロレーC2201 が八雲牧場から十和田農場へ移管されました。

国内では、すでに希少な品種となっているシャロレー種が十和田農場で教育研究に貢献してくれることを期待しています。

日本短角種種雄牛を北大牧場へ(12/13)

日本短角種種雄牛の幸里 8843 号が八雲牧場から北海道大学静内牧場へ移管されました。新しい環境の中で、たくさんの子孫を増やし、元気に過ごしてほしいと思います。

(編集担当：畔柳 正)